リレー随筆

「一眼レフの魅力を伝えたい。」

鹿児島県立大島病院 初期臨床研修医　**山田　直樹**

〈少しだけ自己紹介〉

はじめまして。鹿児島県立大島病院初期研修1年目の山田直樹と申します。今回のリレー随筆を担当させて頂くことになりました。前回の古藤先生からのご紹介でこのような機会を与えていただき誠に感謝しております。軽い自己紹介をすると私は，鹿児島県の東の端っこにある志布志市という場所で小中高を過ごし，苦しい2年間の寮での浪人生活（某〇九州予備校）を経て自治医科大学に入学しました。大学でも6年間を寮で過ごし，現在寮生活8年間，一人暮らしは9年目に突入してしまっております。正直ここまで長くなりますと一人で使える時間がかなり多いため，今まであまり興味のなかったものに熱中できるようにもなりました。今までの自分ならあまり見ないようなジャンルのYoutubeの動画をひたすら見続けたり，あまりやったことない音楽をやろうと不意に目覚めてみたり。そんなことばかりやっていると，あっという間に時間というものは過ぎていきます。

さて今回どんなテーマを語ろうかな，と自分なりにいろいろと考えてみましたが，全く思いつかずに刻々と締め切りが迫ってきてしまい，せっかくならその自分の熱中していることについて話そうかなと思います。話が散らかってしまうかもしれませんが，お付き合いいただけますと幸いです。

〈写真にハマる〉

『大学生なら一度はカメラが欲しくなる』。よくそんな話を耳にしていましたし，周りの友達もカメラが欲しいと言っている人がちらほらいました。ですが自分はそんなのありえないだろうと思っていましたし，そんな流行りに乗るミーハーになんかに絶対なりたくないとも思っていました。

そんな大学2年の4月くらいのある日，ふと思い立ち何も買わないのはわかっているが，家電量販店に行くことにした。今までもたまにではあるが家電を見に行くことがあり，自分の暇つぶしの一つでもあった。そこでカメラコーナーをふと見ると，「なんかカメラってかっこいいな」と単純に思った。子供の時に戦隊もののロボットですごく興奮していたように，カメラを見た時にそんな興奮と似ているような感情になり，これは買うしかないと衝動的に手に取り，値札を見た。当然，学生の身分で買えるような代物ではなかったので，ローンで10回払いくらいにして購入しバイトを頑張るしかなかった。今でもどうしてそんなに衝動的になって買ってしまったのかは分からないが，ついにカメラを手に入れた。

衝動的に買ってしまったので性能や特徴，機能も何も分からないまま，とりあえず何か撮ってみるか，と思い栃木にある有名な写真スポットである足利フラワーパークに一人で行ってみた。そこは栃木に旅行に行くなら一度は訪れてみたいといわれているほどに有名

な場所で，ネットで検索してみれば必ず出てくる観光スポットであった。そんな場所なので，溢れるような人の群れで園内がかなり混雑していた。さっそくカメラを取り出して初めて撮った写真は，まだ一眼レフカメラの仕組みや使い方も分からないまま撮っているようなとりあえずオート機能を使った写真で，スマートフォンとあまり変わらないんじゃないか？と思うような出来でした。そんなことを感じながらもだいたい2時間くらいカメラと格闘しながら撮っていき，自宅に帰り撮った写真をパソコンで見てみると，自分の撮った写真ですがかなり驚いてしまった。

まず写真の解像度がスマートフォンと明らかに違う。花びら一つ一つの色や立体感をかなり写すことができているけど，実際に目で見ているような写りにもなっているので主張しすぎていないのが感動的でした。うまく言葉に表すことができないのが難しいですが，初めて写真を撮った自分がこんなにいい写真が撮れるのか，とカメラを買った時から二度目の興奮が湧きあがっていました。

そんな感動からよりいっそうカメラにハマってしまった私は，まずは一眼レフの機能や使い方をネットや買った本で片っ端から読みあさって覚えていき，基本的な機能を覚えてから他の有名な写真スポットに行っては写真を撮りまくることを繰り返していきました。一眼レフの設定には，F値とかiso感度とか，専門的な知識も必要で，そこからそれぞれの被写体に応じて撮り方の違いもあって，撮り方も自分の撮りたいような写真に合わせて撮るというように千差万別です。より具体的な話をすると読んでいる方を置いていってしまうので，あまり多くは語りませんが茨城のひたち海浜公園のネモフィラや富士山，天の川などなど撮りたいものは山ほどあり，きりがありませんが実際に行った場所では一回にとりあえず1000枚程度撮っていきました。

これからカメラを始めたい人やほしい人に1つだけアドバイスするならば，とりあえず写真をたくさん撮ることです。いろんな設定で撮った写真は1枚ずつ全て違いが出るので同じ被写体を撮るにしても何枚も撮るとおもしろいし，あとから見るとこの被写体にはこういう設定で撮るのがいいという発見があります。私もまだ自分で設定するのにどれが最適かはまだ分かっていないですが，分からないところを手探りで探していくことが面白さの1つかなと思います。

〈写真は自己満足でいい？〉

大学2年にカメラに無事にハマってからというもの写真を撮るためだけに全国各地を回り，帰省する時も車で寄り道しながら写真スポットに行くというのを繰り返して行きました。大学を卒業するころには北海道以外の都道府県は車で走破しました。各県の写真スポットを回ってそこで写真を何枚も撮って家で少し編集する。その繰り返しをやっていくと，いったいどんな写真が良い写真なのか分からなくなってきていました。自分はその写真に満足していても本当は撮り方が良くなかったり，編集が下手くそだったりするかもしれない。そんなことを考えているちょうどその時期は，インスタ映えが流行ってきている頃でせっかくならインスタグラムに投稿してみようと思い，思い切って投稿してみました。アマチュアの写真家の人やプロの写真家まで結構多くの方が既にやっていてインスタ映えで“バズる”ことを目指してやっている人や，自分の撮りたい写真のジャンルだけに絞って投稿している人などいろんなタイプの人がいました。どのジャンルの写真も本当に良い写

真ばかりで，周りから見てもいい写真と分かるようなものばかりでした。しかし，一番感じた共通していることは，自分が納得して撮っている写真ということでした。撮りたいものを自分の撮りたいように撮る，これが一番いい写真になることだなと今では思っています。

〈写真にハマり気づくこと〉

自分のカメラ遍歴をこんなに書くと，写真を撮ることは非常に難しいことのように伝えているかもしれない。でも決してそんなことはないことをもう一度言っておきたい。逆に写真を始めたことでよかったことはある。一つには，「写真を撮ることで日本の四季に感動したこと」だ。特に春に一斉に咲く桜，夏のひまわり，秋の紅葉。それだけではなく，日本には四季によって最高のロケーションになるスポットも全く違う。例えば富士山でも春はまだ山頂に雪が残り，桜の背景にして撮ると素晴らしい構図になる。こんなことを今は話すことはできるが，花を見ることなんて全く興味がなかった自分が今では富士山と桜の構図など考えることなどありえなかった。それに加えて道端に咲いている花にも目が行くようになるとは思いもしなかった。そんな小さな発見があると普通の毎日でも少しだけテンションが高くなるような気がする。それがカメラをはじめて良かったことの二つ目である「小さな魅力に気づくこと」である。

〈さいごに〉

カメラは確かに高い。それでも今はようやく働くことで稼げるようになったので次に買うレンズはどうしようかと考えているところです。皆さんに少しでもカメラの魅力が伝えられたのか，とても不安ですが少しでも趣味のない人に向けてカメラを始める勧誘ができたかなと思います。今は奄美にいるのでより自然に近い写真を撮ることが目標です。皆さんもスマートフォンでもいいので日常の小さな発見を写真で記録するのもいいかもしれません。拙い文章になってしまいましたが最後まで見て頂きありがとうございました。改めてこのような機会を与えてくださり誠に感謝しております。最後になりますが少しだけ自分の撮った写真を掲載しておきます。

去年撮った写真を一部

ひまわり

河津桜とメジロ

次号は，鹿児島大学病院研修医　鮫島芳宗先生のご執筆です。　（編集委員会）